



# 小合中だより



小合中 258-1

教育目標「自主 協力 創造」 重点目標「自己管理能力の育成」 428号 2025年12月23日

## 自分たちで「目指す姿」を明確化させた意義



＜小合中の教育が目指す生徒像＞  
 全力で楽しみ、わくわくの溢れる生徒  
 仲間や地域を尊重し、助け合い高め合う生徒  
 積極的に創造する生徒



小合デザイナーとして、合計で3回の大きな話し合いの場に臨みました。僕は人前で話をするのが苦手です。今まで人前で発表するようなことはなるべく避けてきました。今回の小合デザイナーの活動をきっかけにして、このことを克服したい、そう思ったのが、この小合デザイナー活動を始めた理由でした。

最初の語る会ではとても緊張しました。でも、みなさんと協議していくうちに、緊張もほぐれていきました。3回目の「区長と語る会」では、人前で話すことに、以前よりも自信がもてたことを実感しました。たくさんの人の想いに触れられたことや、みなさんの意見をまとめ提言まで繋げられたことは、とても貴重な体験となりました。地域のみなさん、小合デザイナーのみなさん、歓校長先生、先生方。関わってくれたすべての人に感謝しています。ありがとうございました。

小合デザイナーリーダー ○○ ○○ さん



これまでの「小合中学生の目指す姿」は教職員がつくったもの。もちろん、生徒のみなさんへの熱い想いや願いが込められたものです。しかしながら、目指すべき目標は、自身の想いと願いを込めてこそ価値あるものです。誰だって、他者によって作られた目標は自分事とはなりにくいでしょう。今回、「目指す姿をみんなで作り上げたい」という想いを抱き、小合中生 76 名はもちろんのこと、小合中教職員、地域の方々、両小の教職員、そして小学6年生の想いと願いを繋ぎ、まとめあげたことは、本当に価値高いと感じています。

小合デザイナーは、小合中の教育目標『自主・協力・創造』に込められた先人の想いに触れ、「1つ目は自身の在り方について、2つ目は他者とのかかわり方について、そして3つ目はどのような時代をも切り拓く決意なのだ」と共感しました。そして、自身の在り方として、「全力」と「わくわく」に強い想いを込めました。他者とのかかわり方として、何よりも「尊重」、そして「助け合うのは当然で、さらに高め合える域へ行こう」としました。最後に、「創造」という言葉に決意を込めたのです。



12/17(水)「区長と語る会」にて、小合コミ協の井浦会長に提言し、見届け人の長崎区長と語り合う小合デザイナーリーダー





＜小合地域の教育が目指す人間像＞  
感性豊かな人  
伝統と絆で繋がる人  
熱意をもって挑戦する人

＜達成のための主な手だて＞  
祭の活性化  
奉仕活動の活性化

また、体育祭や合唱祭などを通して、集団で目的を共有していたからこそ、一人一人が、そして集団が成長しているのだ、という実感から、小合地域全体で目指す姿を明確にしたい、と考えました。（詳細は前号の小合だより427号に記しました。）小合デザイナーは、地域の方々との協議を経て、「感性溢れる人で在りたい」という大人の想いに共感し、「伝統を紡ぐためにかかわり続けたい」という意志に賛同しました。そして、「人生の最後まで挑戦し続けたい」という言葉に、強い決意を感じたのです。

様々なアンケートや協議を通して、小合の素晴らしさを再確認した小合デザイナーは、「大きな一つが伝統であり、受け継ぎたい。もう一つは、人に奉仕することが大好きということ」として、それらの更なる活性化こそが、目指す姿への手だてとなるはずで、意志をもって取り組みたい、と提言を締めくくりました。

提言を受けた小合コミ協の井浦会長からは、感性、伝統、ともに小合の誇るものであり、挑戦する熱意も含め、大いに共感できるといった旨の言葉をいただきました。そして、小合コミ協として小合デザイナーの取組にできる限り全力で協力する、と賛同・応援の声をいただきました。※1

この様子を見届けた長崎区長からは、「子どもだけ、大人だけ、ではなく、一緒に取り組もうという姿勢やウェルビーイングの実現に向けて“やりたい”を突き詰める姿は素晴らしく、夢を抱き続けてほしい。そして提言にあった“創造”、“感性”、“主体性”、はいずれも重要で、自分から考えを作れる人であってほしい。」などと小合デザイナーの取組を価値付けて下さいました。そして最後に「失敗は糧と思えば次に繋がる、足を止めず前に進もう、まずはやってみる、やれば次に繋がるから。」とメッセージを下さいました。

小合デザイナーのみなさん、よくぞここまで考え抜いてくれたと、感心しています。本当に、頼もしい。取組を通して、自身を大きく成長させましたね。小合中生のみなさん、今回の取組は、小合中としての躍進であり、伝統として受け継がれる大きな出来事だったと思いませんか。

一つ加えたいのは、今年最初のデザイナーであった古紙回収デザイナーの活躍、そして、体育祭わくわくデザイナー、秋葉デザイナーの活躍があったからこそ、それらが繋がって、今回の小合デザイナーの成果となったのでしょう。また、みなさんの『わくわくが好き』『ひとのための行動が好き』『かかわるのが好き』だから『イベントが大好き』という、温かく、創造性に溢れた雰囲気だからこそだと、私は感じています。

この雰囲気は、小合中の風土※2と言えるのでしょうか。

小合中学校 校長 永井 歓

※1 小合地域の教育が目指す人間像：この後、小合コミ協役員会での審議を経て、正式決定されます。

※2 風土：人と人の相互作用によって生まれ、その集団の根幹をなし、特性を決定づける重要なもの 等







## 冬の大運動会 ～自分たちで立案し、運営する～

生徒会執行部主催『冬の大運動会』において、小合中生の素晴らしさが、また最大限に発揮されました。自分たちで立案し、調整・運営する。そして、全力で取り組み、全力でわくわくを表現する。このことは、これまでも触れてきた通りに、生徒として在りたい至高の姿です。「全力で楽しみ、わくわくの溢れる生徒」「仲間や地域を尊重し、助け合い高め合う生徒」「積極的に創造する生徒」をまさに達成する姿だったのでは。



自分たちで立案し、運営する生徒たち



全力でわくわくを表現する生徒たち

## 小合クリスマスの集い ボランティア

小合コミ協から「サンタ役をしてほしい」との依頼がなされました。依頼を受け、生徒会執行部が全校へ呼びかけた結果、なんと8名が手を挙げました。12月21日午前、たくさんの園児、児童、そして地域の大人が集う中、小合中有志生徒と一緒に時を過ごしました。小合デザイナーの提言「奉仕活動の活性化」を実践する姿でした。サンタとトナカイの温かさに参会者の誰もが心を洗われた、とても素敵な時間でした。



※ HP 掲載版（生徒氏名と写真を修整しています）







# お知らせ



## 小合中 SSR 「にじいろ教室」について

新潟市の小・中学校では「自分の教室に入りづらい児童生徒の学校内の居場所を確保して、不登校を未然に防止するとともに、不登校児童生徒の登校復帰を支援する」ことを目的として SSR（スペシャル・サポート・ルーム）の開設を推進しています。昨年度末で市全体の約半数で設置され、数年後の完全設置を目指しています。

当校においては昨年度から設置を模索し、今年度の夏休み明けから本格的に運用を開始しています。現在、緒事情から教室に入れられないけれど他の場所で心を休めながら勉強をしたい、といった個々の状況に対応し、ほぼ毎時間、教職員がついて学習を支援しています。

この度、当校 SSR を「にじいろ教室」と命名しましたので、ご紹介いたします。

## 特別支援教室「ゆりのき教室」について

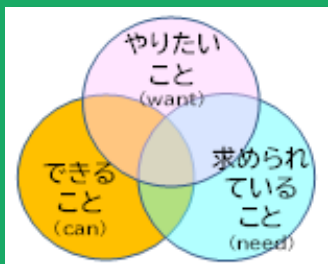
これまで当校では、特別支援学級の教室について当校固有の名称を付けていませんでした。この度、上記「にじいろ教室」の命名に併せて、特別支援教室を「ゆりのき教室」と命名させていただきました。ご承知おきください。

## 小合中の応援団を紹介

### 【小合と自分の好きを探して！！】

12月17日（水）に、小合中学校で開かれた「子どもと秋葉区長で地域の未来を語る会」に出席しました。小合デザイナー（有志生徒）による提言・発表に、“素晴らしいな～”と今も感動しています。プレゼンテーション（発表）では、「小合地域が目指す人間像」「小合中が目指す生徒像」「達成のための手だて」が盛り込まれ、生徒の皆さんの密度の濃い話し合いと資料作成作業の熱の入れようがヒシヒシと伝わる出来栄でした。

10・11月には地域の皆さんや小学6年生とも協議されるなど、幅広い視点で検討を深められ、「祭の活性化」「奉仕活動の活性化」の2つの提案にまとめ、きっと満足いく発表だったろうと考えます。ここに辿り着くまでにケンケンガクガクの議論があり、改めて小合の好きなところはどこだろうと探すうちに、自分が何を好きかに気づいたのでは？と、思います。



僕も自分の好きを探す時に、先輩から教わった左記のベン図法則を使います。皆さんも参考に、試してみてください。左の自分の好き3つの交点に、本当の好きがある、と僕は考えています。

小合中の皆さんが、小合と自分の好きを見つけられるよう願ひし、さらに10年先20年先の小合と皆さんの未来を楽しみにしています。

令和7年12月22日 秋葉区長 長崎 忍

